

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 立命館アジア太平洋大学

【構想の名称】(タイプB-I) APU-SEUグローバル協働教育プログラム-入学前教育から大学教養・専門教育まで

【プログラムの目的・養成する人材像】

立命館アジア太平洋大学(以下、APU)と米国のセント・エドワーズ大学(以下、SEU)と協働で、入学前から大学教養・専門教育までの学位取得プロセスにおいて国際水準の質の高い教育プログラムを構築し、言語力、コミュニケーション力、異文化理解力、広い視野と実践力・応用力、批判的・創造的思考力を持ったグローバル人材の育成を目指す。

【構想の概要】

APU・SEU生は各大学で受ける初年次教育をベースに、「積み上げ式協働教養プログラム」もしくは「協働ダブル・ディグリー・プログラム」に参加、それぞれの大学において留学を行う。APU学生は入学前留学プログラムも実施する。全てのプログラムにおいてラーニングゴールにもとづくアウトカム・アセスメントを実施し、学生の学びと成長に寄与する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組・プログラム実施状況・学生モビリティ

(1)入学前留学プログラム(3月実施)

APU入学予定者に対し、入学直前にSEUへ2週間の短期留学をするプログラム。SEU教員による英語の授業とAPU教員による入学前準備授業の受講、SEUの学生バディとの交流、フィールドトリップ等を通じ、国際的視点を意識した上で、入学後の学習計画を立てていくことを目的としている。H23～H27年度までの参加者は計97名(うち、H27年度は22名)。

(2)積み上げ式協働教養プログラム

Business In Japan プログラム - BIJ (3月実施) 国際ビジネスを専攻するSEU学生が、APUにて日本やアジアのビジネスについて学ぶ約1週間のプログラム。APU教員による講義、日本企業・在日米国企業・公官庁の訪問等を通してアジアにおけるビジネスの知識を深める。H23～H27年度までの参加者は計90名(うち、H27年度は19名)。

ゲートウェイ・プログラム (6・7月実施) SEU学生がAPUにて2ヶ月間、日本語と日本文化を学ぶプログラム。APU教員による日本語クラスと、APU・SEU両教員とAPU・SEU両学生がともに学ぶ協働開講科目、さらにフィールドトリップや農泊、学生バディとの交流を通じ、日本文化理解とコミュニケーション能力を培う。H24～H27年度までの参加者は計39名(うち、H27年度は15名)。

グローバル・コミュニケーション・プログラム - GCP (6・7月実施) APU学生がSEUに2ヶ月滞在。SEUの定評あるリベラル・アーツ科目を履修しながら英語能力の向上を目指すとともに、地域でのボランティア活動やSEUバディとの交流を通じ、グローバル人材としてのコミュニケーション能力の獲得を目的としたプログラム。H24～H27年度までの参加者は計99名(うち、H27年度は28名)。H28年度も15名を派遣予定。

Southeast Asian Studies Program - SEAS (8月実施) GCPでSEUに留学したAPU学生、ゲートウェイ・プログラムにてAPUに留学したSEU学生が、タイ・マレーシアにて2週間、「東南アジアにおける宗教と多文化社会」をテーマに協働学習を行うことにより、異文化理解力・コミュニケーション能力を更に深めることを目的としたプログラム。H24～H27年度までの参加者は計93名(うち、H27年度は28名)。

(3)協働ダブル・ディグリー・プログラム

APU・SEU両大学で開講される教養教育と専門教育を体系的に学び、4年間で両大学の学位取得が可能となるプログラム。H25年度よりAPUからSEUへの派遣を開始し、現在までに4名が参加。H28年8月からも2名を派遣予定。H27年9月よりSEU学生1名をAPUにて受け入れており、H28年9月からも1名を受入予定。

(4)キャップ・ストーン科目

上記のプログラムによって得られた多様で広範な知識を統合し、専門教育に繋げる科目を学生の学びの段階に応じて提供する。H24～H27年に、Southeast Asian Studies Programに統合する形で実施した。

上記の取組を通じて、教養教育、専門教育、留学等によるアクティブ・ラーニングの体系化を図り、国際水準の成績評価、単位認定制度、ラーニング・アグリメントを整備し、国際教育のモデルを構築する。

■ 留学を促進するための環境整備

事前・事後授業・留学アドバイジング・eポートフォリオ

参加プログラムに応じた事前・事後授業、個別アドバイジング、eポートフォリオの利用を通じ、学生の留学における目標の明確化、留学中の日々の達成度の検証、留学成果を将来の目標へ活かすための方向付けを丁寧に行っている。プログラムの枠を超えて先輩学生が後輩学生と交流できる場を設け、留学経験を共有し、将来への学びへ結びつけるためのモチベーション維持・向上を図る試みも行っている。H25年度より過年度プログラム参加学生がピア・アドバイザーとしてeポートフォリオ上でのフィードバックを行うことで、留学中もピア・サポートが継続されている。H27年度も同様の取組みおよび英語力向上のワークショップを企画、実施した。

■ 留学成果の研究とプログラムの波及効果

留学成果の研究: 本事業ではeポートフォリオの運用とデータ分析、さらにH24年度からルーブリックに基づく留学効果測定をSEUとともに実施し、結果は広く国内外に発信された。H26年度には「GLUEアウトカム」の指標を設定し、長期インパクト研究を開始。日米のグローバル協働教育の成果を指標化し、SEUと共同で分析を進めている。

プログラムの波及効果: 両大学の協働はプログラムを越え、学長から教職員まで積極的に両校で教育的意見交換をし、SEU教員による本学教職員へのSD/FDも実施している。今後は新規プログラム開発と、APU-SEU間での教職員交換プログラムなども検討。またeポートフォリオ、バディ研修、ピア・サポートシステム、入学前留学などは先駆事例として、学内外の海外プログラムにも波及している。本事業はオースティン市と大分市の姉妹都市交流に寄与するため、両市との連携も図っている。H28年5月にはSEU学長が大分市および本学を訪問し、今後の連携に関する協議を行った。

■ 成果の公開・普及

本プログラムの成果について国内外の研修会や国際会議等において発表。H28年1月には学外関係者を招き、最終成果報告会を実施した。

【学会・研究会発表】

- ・AAC&U, Global Learning学会
- ・NAFSA
- ・CIEE短期海外研修セミナー
- ・学生の海外体験学習と質保証研究大会
- ・朝日ネットmanabaセミナー ～他多数

【論文】

- ・「短期留学プログラムにおける意義のある学習」の実践(異文化間教育学会)等

交流実績数	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	8	49	65	68	66
学生の受入	16	40	28	35	48

(延べ人数)



GCPプログラム
SEUでの修了式